

令和4年度くずし字入門講座 第3回 「頻出文字・言い回し」 翻刻文

福井県文書館

【資料1】飯田忠光家文書「定（五榜の揭示、第三札）」G0013- 00786

定

一 切支丹宗門之儀者

是迄御制禁之通固く

可相守事

一 邪宗門之儀者固く

禁止候事

慶応四年三月 太政官

右之通被

仰出候間堅可相守者也

敦賀県

1

【資料2】勝見宗左衛門家文書「大成用文章（往来物）」B0037- 00712

預り申金子之事

一 金何拾両也 但利足月何朱定

右者此度我等要用有之、書面之

金高髓ニ預り申処実正也、返済之儀者

何時ニ而茂御入用御案内次第、即刻

返金可仕候、為後日之預り証文依而如件

年号月日

預り主 何屋誰判

証人 何屋誰判

何野誰殿

【資料3】吉野屋文書「借用申銀子之事」B0030-00723

借用申銀子之事

一 銀百式拾匁 但シ利足

右者西暮御納所指支申ニ付、右之銀子借

用仕代金髓受取 御公儀様へ御上納銀ニ

差上申処実正御座候、然る上ハ返済之儀者

来戌三月切ニ元利共急度相済可申候、

為後日我等ニ判形仕証文相渡シ申処仍而如件

寛政元年

花谷村借主

西十二月廿一日

弥三兵衛(印)

庄屋

久右衛門(印)

油や

与兵衛様